

「ボランティア精神」



小松税務署長
蜷谷 栄三郎

小松法人会女性部会の皆様方には、平素より
税務行政の円滑な運営につきまして、深い御理
解と多大な御協力を賜り、厚くお礼申し上げま
す。

皆様方におかれましては、次代を担う小学生
を対象とした「租税教室」の積極的な開催や、
地域に密着した「道路の除草作業」、「老人施設
への慰問」などの社会貢献活動に積極的に取り
組まれるなど、あらゆる分野において活発に活
動されており、その行動力は、大変頼もしく、
心から敬意を表しますとともに、改めて感謝を
申し上げます。

さて、今年には西暦2020年と区切りの良い
年に、東京でオリンピックが1964年（昭和
39年）以来56年ぶりに開催されます。これはア
ジア初の同一都市による複数開催だそうです。
前回の開催は、戦後急速な復活を遂げた日本が
再び国際社会の中心に復帰するシンボリックな意
味を持ったと言われました。今回の開催は、そ
れから60年弱を経て、大地震をはじめとする幾

多の自然災害を乗り越えながら、安全清潔で平
和な社会を築いているわが国に、既に年間3,0
00万人を超えている外国人訪日客を招き、世
界に「スポーツを通じて、文化、国籍などの違
いを乗り越え、友情、連帯感の精神をもって、
平和でより良い世界の実現に貢献する」という
オリンピック精神を訴える絶好の機会だと思い
ます。

今回のオリンピックにおけるボランティア約
8万人のうち、6割は女性であり、女性が持つ
感性とパワー、そして女性ならではの優しさや
きめ細かさやが、各種ボランティア活動の中で、
日本人に根付いている「おもてなし」の心を強
く世界に印象付けるものと思われれます。

近年、少子高齢化社会の進展に伴う社会保障
費や防災のための国土強靱化工事の安定財源と
して税のあり方が議論される中、国や子孫の明
るい未来を見据え、税金がこの社会で果たして
いる役割の重要性を伝えていただいている皆様
の社会貢献活動は、まさにオリンピックにおけ
る女性ボランティアと同様に、社会を支える大
きな力になるものと思われれます。

皆様方におかれましては、今後とも女性なら
ではの優しさと行動力をいかんなく発揮され、
今後ともますますご活躍されますことを期待し
ております。

本年が皆様方にとって、穏やかで幸多き年と
なりますようお願い申し上げます。御挨拶とさせて
いただきます。本年もよろしくお願いいたしま
す。

令和元年分 申告所得税・復興特別所得税及び消費税・地方消費税 (個人事業者)の申告と納税は正しくお早めに

申告所得税及び復興特別所得税の場合

- 申告と納付の期限は

3月16日(月)

- 振替利用者の振替納付日

4月21日(火)

消費税及び地方消費税の場合

- 申告と納付の期限は

3月31日(火)

- 振替利用者の振替納付日

4月23日(木)

全員大会・小松税務署長の講演会を開催

6月20日(木) ホテルピナリオ小松セン
トレにて女性部会全員大会を開催し、平成
30年度事業報告と、令和元年度の事業計画
を確認しました。引き続き、小松税務署長
桑野文更氏を講師にお招きして、「令和を迎
えて」と題した講演会を開催しました。

講演会では、「ご当地検定 郷土愛(LO
VE)チェック表」の問いに皆で取り組み
ました。初めて知る事も沢山あり、北陸三
県を比較考察したお話も伺えて、郷土を知
る良い機会になりました。

高長 美津子



社会貢献活動

老人施設慰問 タオル寄贈

9月10日(火) 能美
市寺井町の小規模多機
能型居宅介護「ケアホ
ーム杜の郷能美」を慰
問し、女性部会員等
によるゲームや踊りを披
露しました。

慰問では、タオル体
操やミニゲームを行う
とともに「シヤボン玉
」や「リングの唄」を合
唱し楽しい交流となり
ました。

また、本年度は、あ
らたにタオル70本を寄
贈しました。



除草作業

10月7日(月) 社会
貢献活動の一環として、
秋の除草作業を実施し
ました。

除草作業は春と秋の
2回あり、小松市・加
賀市・能美市の3か所
に於いて作業を行いま
した。

いちごプロジェクト

無理なく 無駄なく 快適に

7月21日(日) アルプラザ小松に於いて、
買い物客らに、みんなで出来る夏の節電対策
として、「節電啓発用チラシ」や「うちわ」を
配り、節電への協力を呼びかけました。

この活動は、電力の供給不足が懸念される
なか、家庭での節電行動を広く啓発する活動
で、女性部会が中心と
なって全国的に継続し
て取り組んでおります。

その際、けんたグッ
ズや税に関する小冊子
等を配布し法人会のP
Rにも努めました。



税に関する絵はがきコンクール

11月11日(月) 令和元年度の「税に関する
絵はがきコンクール」の表彰式が小松市役所
エントランスホールで開催されました。

小松法人会会長賞には、芦城小学校6年、
福本花星さんが選ばれ、小松法人会女性部会
副部会長の森里枝さんより、表彰状が贈られ
ました。



視察旅行「東京」

10月24日(木)・25日(金)参加者26名にて、視察研修旅行を実施しました。

一日目の視察研修は豊洲市場の見学。豊洲市場は、閉鎖型施設で温度を適切に管理できるようになっているそうです。水産卸売場棟などを見学しましたが、施設が清潔に管理されており、食の安全・安心に繋がっていると感じました。

その後、重要文化財である旧前田家本邸、国会議事堂を見学。中でも、国会議事堂の衆議院本会議場は傍聴席から議場を眺めると、荘厳な造りに圧倒され、この場所で国会の討論がされていると思うと身の引き締まる思いでした。

二日目は東京証券取引所を見学、投資家に対してリアルタイムの市場情報の提供を行い、上場企業の確かな情報開示をサポートする場です。売買監視業務を行っているマーケットセンターのチャエッカーの様子を興味深く見ることが出来ました。

その後、花王ミュージアムの見学では、創業以来からの史料や日常生活の移り変わりが詳しく紹介されており、昔の暮らしぶりが懐かしく感じられました。



租税教室の開催

小学6年生の児童を対象に租税教室を開催しました。次代を担う子供たちに租税の意義や役割を正しく学んでもらうための活動として毎年実施しています。

授業では、会員らが税に関する紙芝居や税金クイズを行い、税金のある町とな

い町を比べて、みんなの身の回りにはどのようなものに税金が使われているかなど、税金の必要性や使い道を分かりやすく説明しました。子供たちは身近なところに多くの税金が使われていることに驚きながらも、税金の必要性を理解してくれたようです。

本年度の租税教室は、粟生小学校及び山代小学校で実施しました。



全国女性フォーラム富山大会

第14回法人会全国女性フォーラム「富山大会」が4月25日(木)富山産業展示館テクノホールで開催されました。「煌めく女性の輪 富山から未来へ」のキャッチフレーズのもと、全国から約1,600名の女性部会員が参加しました。

第一部の記念講演では、俳優・映画監督として活躍されている奥田瑛二氏が「わが映画人生」と題して記念講演会が行われました。

第二部の大会式典では、富山県連女性部会による、社会貢献活動や租税教室の様子が紹介され、租税教育など税の啓発活動や社会貢献活動を継続していきたいと思われました。

活動報告

令和元年度

4月16日 春の除草作業

(小松市・加賀市・能美市)

4月22日 県女連 正副会長会議

4月25日 全国女性フォーラム「富山大会」

5月22日 研修旅行実行会議

6月14日 研修旅行実行会議

6月18日 いちごプロジェクト実行会議

6月18日 老人施設慰問実行会議

6月20日 全員大会・講演会・意見交換会

6月25日 県女連

第19回定時連絡協議会(総会)

県青連・県女連合同

7月21日 いちごプロジェクトの実施

小松市「アルプラザ小松」

7月29日 老人施設慰問実行会議

8月28日 租税教室実行会議

9月10日 老人施設慰問

能美市「ケアホーム杜の郷能美」

10月7日 秋の除草作業

(小松市・加賀市・能美市)

10月16日 絵はがきコンクール審査会

10月24日～25日

視察研修旅行

11月11日 絵はがきコンクール表彰式

11月26日 広報編集会議

12月3日 租税教室・能美市(粟生小学校)

12月5日 租税教室・加賀市(山代小学校)

知[✓]ってほしい!

消費税と社会保障のQ&A

Q.

消費税率引上げによる増収分は
どう使われる?

A.

子供・子育て、医療・介護、年金等、全世代を
対象とする社会保障の充実と安定のために使われます。高齢者中心の社会保障から、子育て世代や現役世代を含む
全世代型社会保障へと転換します。

すべての世代の安心を支えます

社会保障の費用のうち、借金で賄っていた部分の一部に
安定財源が確保できるようになります。

増収分を財源の一部に

保険料

公的な費用
(税金 + 借金)社会保障の費用
(イメージ)

よりよい会社を目指して

株式会社 根上印刷所

佐田 了子

会社の社長の机の横の壁に、こんな色紙が貼ってあります。

真剣だと 知恵が出る

中途はんばだと ぐちが出る

いいかげんだと 言いわけばかり

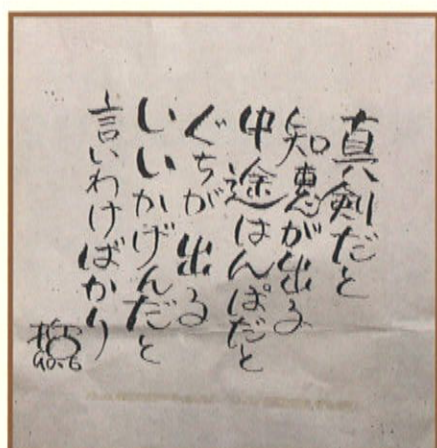
この言葉を目で追いながら意識して生活を送っています。どんなことに對しても真剣に取組み皆様に役立ちたいと思っています。

創業から57年経ちます。活版印刷から始め今では全てデジタル化し、当時から見ればずいぶんとスピード化したものだと思えば驚きばかり…。でも少しでも役立つことはないかと思ひ、私も高齢になりますと、まずは若い社員の健康を考え、決して無理をせず元気に勤めてほしいと思います。会社の経営理念に基づいて社長、社員がお互いに意見を出し合っ

て地域に貢献できるように努めています。今は社長も替わり印刷様式も変わると同時に、全ての事に対応できるように、名刺一枚からハガキ、チラシ、伝票、パンフレット、また冊子の製作、月刊誌も対応出来、折り機、丁

合機、製本機も社内にあるので仕上がりが驚くほどです。「まだ出来ないか」ではなく「もう出来たの」と言われることもあります。社員も仲良く、一生懸命な姿があちこちで見受けられます。誰からも信頼できる会社であるよう日々頑張っています。

最後に、この原稿の依頼を受け色々悩みました。本をひっくり返して読んでいる内一つ気付いた事は、生活する中で自分にプラスになる言葉をいつも言う事。五日市剛氏の講演筆録の中から、「ツキを呼ぶ魔法の言葉は『ツイている』を一日何十回も言う事。また『感謝します』と『ありがとう』はツキを呼ぶ言葉」だそうです。また斎藤一人氏の中に「トイレ掃除はトイレが汚いとお金に嫌われる」とか、「トイレ掃除は我を流すと言われ素直に聞けるようになるんだ」と…参考になれば幸いです。



プルタブ・エコキャップの

収集にご協力を：

当女性部会では、地域社会貢献の一環として、空き缶のフタに付いている「プルタブ」と「ペットボトルのキャップ」を集めています。

事務局では随時受け付けておりますので、会員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

(注) ペットボトル以外のキャップ

(醤油などのキャップ)は回収できません
(キャップは軽く洗浄し、乾かして下さい)

環境NOW

「紙おむつが抱える環境問題について」

紙おむつの原料は多くがプラスチックです。ごみとして出される時には、水分を多く含んでいるためダイオキシンの問題やプラスチックが燃焼する時には高温になり焼却炉を傷めます。今後、高齢者が増える日本では、紙おむつのごみも増え、環境省は自治体に紙おむつのリサイクルを促すガイドラインを策定する方針を固めました。皆さん紙おむつのいらぬ元気なお年寄りになりましょう。

佐々木 真知子

編集後記

「ほほ笑み15号」を発行するにあたり、皆様にはご協力、ご寄稿を頂きありがとうございます。今後とも、皆様方より貴重なご意見やご希望をお聞かせ頂けたら幸いです。